

東京ビエンナーレ2020/2021 Tokyo Biennale 2020/2021

# 見なれぬ景色へ

緊急事態宣言下で開催された国際芸術祭「東京ビエンナーレ2020/2021」。 オリンピックとパンデミックにゆれた2021年の首都に、

つかのま出現した"見なれぬ景色"たち — 70のアートプロジェクトを総覧。

一般社団法人東京ビエンナーレ

定価2,860円(税込)

# Tokyo Biennale 2020/2021 Residence Proje

エリア 神田・湯島・上野・蔵前

Area Kanda · Yushima · Ueno · Kuramae

会期 2021年7月10日-9月5日

Period 2021.07.10 - 09.05

会場 ①ノーガホテル 秋葉原 東京(東京都千代田区外神田3-10-11) ②日比谷 OKUROJI G14 (東京都千代田区内幸町1-7-1)

Venue 1 Nohga Hotel Akihabara Tokyo (3-10-11 Sotokanda Chiyoda-ku Tokyo) 2 HIBIYA OKUROJI G14 (1-7-1 Uchisaiwaicho Chiyoda-ku Tokyo)

プロジェクト概要 東京ビエンナーレ2020/2021と3331 Arts Chiyoda で取り組むアー ティスト・イン・レジデンスプログラム「ソーシャルダイブ」。世界公募で、1,535組から選 出された海外アーティスト12組の内、新型コロナウィルス感染症の影響で来日が叶わなか った6組の海外アーティストの作品映像を会場内のモニターにて上映しました。また、ノー ガホテル秋葉原では、国内作家が滞在しながら作品制作をし、ホテル内で展示をするアー ティスト・イン・レジデンスプログラムも開催しました。

Description An artist-in-residence program realized by "Tokyo Biennale 2020/2021" and 3331 Arts Chiyoda. Of the 12 overseas artists selected from among 1,535

#### 映像出展作家

アラム氏(ドイツ)

#### Artist

藤浩志

# 瓦礫の庭園

# Ruderal Garden

ブスラ・トゥンチ+ケレム・オザン・バイラクター

Buşra Tunç + Kerem Ozan Bayraktar

※本プロジェクトは、コロナウイルス感染症の影響を受け、作家の来日ができなくなったため中止となりました。

\*This project has been cancelled due to the impact of the coronavirus infection, which prevented the artist from coming to Japan.

プロジェクト概要 東京の工業空間、余白、境界、定義されていない場所で記録した、ドロー イング、グラフィック、3D映像からなる本プロジェクトは、都市空間とそこで育つ植物の 主態系や、自然と都市の区別を曖昧にする新たなエコシステムに焦点を当てています。 マルチチャンネルの映像インスタレーションでは、インフラシステムや抽象的な形の工 以品、廃墟やコンクリートに覆われた大地に自生する植物が次第に広がってゆく様子 れらの要素が伝統的な園芸手法に言及しながらグラフィックやテキストを通じて展示され ます。この奇妙で新しい都市の自然の中に日本庭園特有の美意識を見出しながら、植物や 石の歴史的な記憶や変化、そしてそれらが共に現在に何を示すのかを探っていきます。 新しいものの中に伝統を見出すように、コンポジションやコラージュの内容に用いられるイ (一ジは、伝統と近代、自然と都市、人間とその他の生物などの区別の不可能性を明らか) にし、文化や生物学の性質上必要なハイブリッド性を示して

Description This work, which consists of drawings, graphics, three-dimensional visualizations and images taken in the industrial spaces, margins, borders and undefined areas of Takyo, focuses on the life relations within the urban sphere the spontaneously emerged plants of the city and the new ecosystem that blurs the distinction between nature and the city.

In the multi-channel video installation, elements from infrastructure systems, industrio pieces of abstract shapes, rubbles and ruderal plants which start to grow in ruins an barren lands, to eventually invade certain areas, are presented along with graphics an exts referring to traditional gordening techniques. While the unique aesthetic principle of Japanese gardening are sought in this strange new nature of the city, the historical memory of plants and tocks, the change over time and what they represent today are

Images that are presented as collage in terms of composition and cont point out the traditional in the new, actually reveal the impossibility of differentiations such as conventional and modern, nature and city, human and other creatures, and exhibit a hybridity that is necessary due to the nature of culture and t

#### ブスラ・トゥンチ/アーティスト、建築家

建築、アート、デザインの分野で知覚と経験に焦点を当 てた作品を制作する建築家、アーティスト。建築、映画、 音響を研究してきた経験を元に、「雰囲気」を作品のテ ーマとして制作。工業用から日常用の素材や、光学ユニッ ト、アナログ機器を用いて、工業空間や混雑した都市の 名残や記憶を含む構造物を多く生み出す。http://www. busratunc.com/

#### ケレム・オザン・バイラクター/ アーティスト、学者

イスタンプールを拠点に、SAHA Studio(イスタンプール) で活動し、Sanatoriumの代表を務める。身体的な環境、 そしてコンセプチュアルな環境の構築を中心に作品を制 作する。デジタル上での可視化や、写真、アニメーション、 モデル、日常的なオブジェクト、テキスト、グラフ 用いて、自然と人工というシステムにおける障害や境界 が壊や変化などの振る舞いに焦点を当て、どのように人々 に至るまで、様々な組織を構成し、内容によっては大き

#### Busra Tune / Architect, Arti

Kerem Ozan Bayraktar / Artist, Academician Kerem Ozan Bayraktar's wark centers around

# ソーシャルダイブ・スタディーズ

# Social Dive Studies

会期 2021年5月29日-9月24日 Period 2021.05.29-09.24

会場 3331アーツ千代田 Venue 3331 Arts Chivoda

プロジェクト概要 東京ピエンナーレ 2020/2021 のアートスクール「アーシャルダイブ・スタディーズ(SDS)」は、都内の大学教員有志による「学環創出プロジェクト」を礎にひらかれた、地域でアートプロジェクトを起こしていく「街のプレーヤー」育成プログラムである。一般公募によって組織されたSDSメンバーは、ボランティアスタッフとしてアーティストの制作補助や会場管理に従事しながら、3331アーツ千代田で4ヶ月にわたるプログラムを修めた。コロナ禍のため授業は対面とオンラインのハイブリッドで実施し、講師陣は東京ピエンナーレ2020/2021に関わるアーティストやディレクターが務めた。

緊急事態宣言下という特殊な状況はむしろ、巨大都市が抱える災害リスクや地域文化の断絶など都市固有の課題を浮き彫りにし、ポストコロナの東京において「アートに何ができるか?」を探る議論や、メンバーからのプロジェクトの立案・提案が活発におこなわれた。 ファシリテーター:青木彬、伊藤達矢、宮本武典(企画統括)

Description The "Tokyo Biennale 2020/2021" art school, "Social Dive Studies (SDS)", was a program aiming to nurture "city players" who will initiate art projects in the communities of Tokyo, based on the "Projects to Build Academic Community" organized by university faculty members based in Tokyo. The SDS members, who were composed of applicants selected from an open call, completed the four-month program at 3331 Arts Chiyoda while working as volunteer staff who assisted Biennale artists and managed the venues. Due to the Coronavirus pandemic, classes were conducted in a hybrid face-to-face and online format, while the instructors comprised artists and curators involved in the "Tokyo Biennale 2020/2021". The unique situation of being under a state of emergency in fact served to expose issues unique to the city, such as disaster risks faced by megacities and the loss of local culture, leading to discussions that explored what art can do in a post-Coronavirus Tokyo as well as the members' active submission of proposals and suggestions for projects.

Facilitator: Takenori Miyamoto (Head of Planning), Akira Aoki, Tatsuya Ita

#### 「プログラム一覧】

5月29日「企業がアートにかかわるとき」金城敦彦、宮尾弘子6月5日「コミュニティにアクセスするには」山崎亮6月12日「学環創出フォーラム」」伊藤達矢6月19日「街をリサーチする目線」原田祐馬6月26日「ソーシャルダイブ・ラボ1」青木彬、宮本武典7月3日「学環創出フォーラムII」高木紀久子7月14日「アーティストトーク1」令和三年度銭湯山車巡行部」栗生はるか、三文字昌也7月17日「芸術と技術の間にユーモアを」川田十夢7月21日「アーティストトーク2|ギフトプロジェクト」ダフナ・

タルモン 7月24日「ソーシャルダイブ・ラボ2」青木彬、村上タカシ、藤

7月24日「ソーシャルダイブ・ラボ2」青木彬、村上タカシ、ii 原佳恵

7月28日「アーティストトーク3 | 東京影絵クラブ」川村亘平 斎、宮本武典

7月31日「アートとビジネスのメディウムを探して」遠山正道 8月4日「アーティストトーク4 着がえる家」 西尾美也 8月7日「ぼくの東京アートガイド」ナカムラクニオ 8月11日「アーティストトーク5 東京ピエンナーレ 2020/2021会場計画」一色ヒロタカ 8月14日「学環創出フォーラムIII」中島伸 8月18日「ソーシャルダイブ・ラボ(補講)」青木彬、宮本武典 8月21日「ソーシャルダイブ・ラボ3」青木彬、宮本武典 8月25日「アーティストトーク6 | TOKYO BENCH PROJECT 2019-2021」グランドレベル 8月28日「アートプロジェクトの経験について」宮本武典 9月1日「アーティストトーク7」災害対応力向上プロジェクト 〈いつものもしも〉」良品計画、オンデザイン 9月4日「学環創出フォーラムIV」佐藤慎也 9月8日「クリエイションに伴走する言葉」小池一子 9月25日「ソーシャルダイブ・ラボ企画発表会1|青木彬、伊

10月14日「ソーシャルダイブ・ラボ企画発表会2」青木彬、宮本武典

#### [SDS第1期修了メンバー]

藤達矢、中島伸、宍戸遊美

赤星りき、安東豊、飯田莉佳子、池田奈津、今井さつき、小川直恵、金澤碧、久保田碧音、窪田菜美、小谷萌、齊藤美咲、佐藤久美、佐藤めぐみ、儲靚雯、塚本亜里菜、鄭暁麗、寺本さつき、遠田容子、中島静代、中野裕輝、早川洋美、堀川菜々、堀場絵吏、宮本明日香、森淳一、山本奈津希、瀧戸彩花(コーディネーター: 工藤大貴、井上寛太)

Lit. Taric Comp.

# 批評とメディアの実践プロジェクト [RELATIONS]

## A Project for Criticism and Media Practices

#### 毛利嘉孝

Yoshitaka Mouri

プロジェクト概要「リレーションズ: 批評とメディアの実践のプロジェクト」は、新しい時代の新しいアートの形式をめぐる批評とメディアの実践の試みです。それは、アートを中心としながらも、アートとその隣接領域、社会や経済、政治や科学テクノロジーの「関係性」を探るものです。それは「東京ビエンナーレ」の一部をなしつつも、「東京ビエンナーレ」やそれに関連するプロジェクトを批判的に検証しつつ、新しいアートのあり方を模索する試みです。

Description RELATIONS is a project for criticism and media practices that tries to create new languages for the arts and media in response to new art forms in the twenty-first century. It attempts to explore the relationship between art and other fields, including those of sociology, economics, politics, science and technology. While this project is part of Tokyo Biennale, it critically examines the biennale and aims to propose new ways of art.

#### イベント概要

トーク

7月17日「LIVE RELATIONS! vol.01 DAY1」 「登壇者]

Tokyo Biennale 2020 SOCIAL DIVE Artist-in-Residence Projects

〈ビデオ・スクリーニング〉

Kray Chen クレイ・チェン (アーティスト)

Hildur Elísa Jónsdóttir | ヒルダー・エリサ・ヨンシュドッティル (アーティスト)

Dafna Talmon | ダフナ・タルモン (アーティスト、写真家、地理学者)

Rosiris Garrido | ホズィーリス・ガヒード(アーティスト)
Chen, Fei-hao | 陳 飛豪 | チェン・フェイハオ (アーティスト、ジャーナリスト)

〈ライブ参加 (オンライン)〉

Michael Hornblow マイケル・ホンプロウ (アーティスト、ジャーナリスト)

Fiona Amundsen | フィオナ・アムンセン (アーティスト、オークランド工科大学講師)

Ting-Ting Cheng | 鄭 亭亭 | チェン・ティンティン (アーティスト)

Buṣra Tung | ブスラ・トゥンチ (アーティスト、建築家) Kerem Ozan Bayraktar | ケレム・オザン・パイラ クター(アーティスト、学者)

Pedro Carneiro Silva + Ardalan Aram | ペドロ・カルネイロ・シルヴァ+アーダラン・アラム (Pedro Carneiro Silva: ピアニスト、作曲家、パフォーマー Ardalan Aram: コンセプチュアル・アーティスト、映像作家)

Alina Bliumis+Jeff Bliumis | アリーナ・ブリゥミス +ジェフ・ブリゥミス (アーティスト)

Tokyo Biennale 2020/2021 Artists 〈ライブ参加 (オンライン)〉

Shino Yanai | 柳井信乃 (アーティスト)

Kanako Hayashi | 林加奈子 (美術家)

Yoshinari Nishio | 西尾美也 (美術家)

MMIX Lab(媒体融合Lab)

#### 7月18日「LIVE RELATIONS! vol.01 DAY2」 [登壇者]

Yoshitaka Mōri | 毛利 嘉孝(東京藝術大学大学院・ 国際芸術創造研究科 教授)

Kenji Kajiya | 加治屋 健司(東京大学大学院・総合 文化研究科 教授)

Tomoko Shimizu 清水 知子(筑波大学·人文社会系准教授)

Wakana Kono | 鴻野 わか菜(早稲田大学・教育・総合科学学術院 教授)

Yoshikazu Nango 南後 由和(明治大学・情報コミュニケーション学部 准教授)

Michelle Lim | ミシェル・リム(シンガポール南洋理 工大学 スクール・オブ・アート・デザイン・アンド・メディア助教授)

Adrian Favell | エイドリアン・ファヴェル(リーズ大学 社会学・社会理論学部 教授)

Pan Lu | 潘 律 | パン・ルー(香港理工大学中国文化系助理教授/本科課程主任)

#### 毛利嘉孝/社会学者、東京藝術大学教授

1963年、長崎生まれ。東京藝術大学大学院 国際芸術 創造研究科教授。京都大学卒業、広告会社勤務後、ロン ドン大学ゴールドスミスカレッジでPhDを取得。特に現 代美術や音楽、メディアなど現代文化と都市空間の編成 や社会運動をテーマに批評活動を行う。

#### RELATIONS 編集委員

毛利嘉孝(東京藝術大学大学院・国際芸術創造研究科・教授) 加治屋健司(東京大学大学院・総合文化研究科・教授) 清水知子(筑波大学・人文社会系・准教授)

鴻野わか菜(早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授)

南後由和 (明治大学・情報コミュニケーション学部・准教授 ) ジェニファー・ワイゼンフェルド(デューク大学・美術・美術 史・ヴィジュアルスタディーズ学科・教授 )

エイドリアン・ファヴェル (リーズ大学・社会学・社会理論学部・教授)

クレリア・ゼルニック(パリ高等美術学校・芸術哲学・教授) グンヒルド・ボーグリーン(コペンハーゲン大学・芸術文化 学部美術史・視覚文化・准教授)

ジャスティン・ジェスティ (ワシントン大学・アジア言語文学・准教授)

パン・ルー/潘律(香港理工大学・中国文化学系・助教授) ミシェル・リム(シンガポール南洋理工大学・スクール・オ ブ・アート・デザイン・アンド・メディア・助教授) パク・ヘヨン(ニューヨーク市大学)

### Yoshitaka Mouri / Sociologist, Professor at Tokyo University of the Arts

Born 1963 in Nagasaki. Mouri is a professor at Tokyo Univesity of the Arts Graduate School of Global Arts. After graduating from Kyoto University, he worked for an advertisement company, and then earned a Ph.D. at Goldsmiths, University of London. His critical practice takes on themes involving contemporary culture and the organization of urban space, as well as social movements, with particular interest in contemporary art, music, and media.

#### **RELATIONS Editorial Board**

Yoshitaka Mōri (Professor, Tokyo University of the Arts) Kenji Kajiya (Professor, University of Tokyo) Tomoko Shimizu (Associate Professor, University of Tsukuba)

Wakana Kono (Professor, Waseda University) Yoshikazu Nango ( Associate Professor, Meiji University ) Gennifer Weisenfeld (Professor, Duke University) Adrian Favell (Professor, University of Leeds) Clélia Zernik (Professor, École nationale supérieure des

Gunhild Borggreen (Associate Professor, University of Copenhagen)

Justin Jesty (Associate Professor, University of Washington)

Pan Lu (The Hong Kong Polytechnic University) Michelle Lim (Nanyang Technological University) Haeyun Park (City University of New York)

#### 東京ビエンナーレ2020/2021 見なれぬ景色へ 一純粋×切実×逸脱一

Tokyo Biennale 2020/2021 Unseen Everyday Scene  $\,$  –Purity $\times$ Earnestness $\times$ Deviation-

発行:一般社団法人 東京ビエンナーレ

発行日:2022年4月15日

監修:小池一子、中村政人 アートディレクション:佐藤直樹

編集:上條桂子、宮本武典 デザイン: 菊地昌隆 (Asyl)

翻訳:ジェイミ・ハンフリーズ、花岡美緒

編集補:高村陽子、寺本さつき、池田奈津、川上智子、森田裕子、宍戸遊美

発行元:一般社団法人東京ビエンナーレ

東京都千代田区外神田6-11-14 アーツ千代田 3331内

E-mail info@tokyobiennale.jp

TEL 03-5816-3220 FAX 03-5816-3221

印刷所:株式会社シナノ

ISBN978-9912394-0-3